

第5 公営企業の業務の状況

1 電 気 事 業

(1) 令和8年度予算及び経営状況

年間総販売電力量を1億4,500万キロワットアワーと見込み、これを基に収益的収支の予算を編成しています。その予定額は、電気事業収益25億1,948万円、電気事業費用23億5,584万5千円を見込んでいます。

また、資本的収支については、資本的収入1億359万4千円、資本的支出12億2,863万2千円を計上し、資源の有効利用と販売電力量の増加を図るため、既設水力発電所の設備更新に合わせたリパワリング（水車ランナの改造等による出力向上）を計画的に推進する取組として、新阿武川発電所の水車ランナ等の制作を引き続き実施します。

なお、水力発電の経営は、気象条件に左右されるので、貯留水の効率的運用を図ることはもちろん、気象状況の早期把握、関係機関との密接な連携などを図り、販売電力量の確保による収入の増加と経費の効率的執行により経営の安定化に努めます。

本年度の業務予定量並びに収益的収支及び資本的収支の予定額は、次の表のとおりです。

第11表 令和8年度電気事業の業務予定量と前年度との比較

区 分	令 和 8 年 度 (A)	令 和 7 年 度 (B)	増 減 (A)－(B)
年 間 総 販 売 電 力 量	145,233,000 KWH	161,579,000 KWH	△16,346,000 KWH

第12表 令和8年度電気事業会計予算の前年度との比較

(単位 千円、%)

区 分	令 和 8 年 度 当 初 予 算 額(A)	令 和 7 年 度 当 初 予 算 額(B)	比 較 (A)－(B)	(A)／(B)
収 益 的 収 入				
電 気 事 業 収 益	2,519,480	2,608,485	△ 89,005	96.6
営 業 収 益	2,433,209	2,558,302	△ 125,093	95.1
附 帯 事 業 収 益	11,369	25,431	△ 14,062	44.7
財 務 収 益	20,462	8,253	12,209	247.9
事 業 外 収 益	54,437	16,496	37,941	330.0
特 別 利 益	3	3	0	100.0
収 益 的 支 出				
電 気 事 業 費 用	2,355,845	2,482,073	△ 126,228	94.9
営 業 費 用	2,259,666	2,390,702	△ 131,036	94.5
附 帯 事 業 費 用	92,671	21,797	70,874	425.2
財 務 費 用	1	116	△ 115	0.9
事 業 外 費 用	504	66,455	△ 65,951	0.8
特 別 損 失	3	3	0	100.0
予 備 費	3,000	3,000	0	100.0
資 本 的 収 入				
資 本 的 収 入	103,594	17,711	85,883	584.9
資 本 剰 余 金	89,092	15,911	73,181	559.9
固 定 資 産 収 入	1	1	0	100.0
雑 収 入	14,501	1,799	12,702	806.1
資 本 的 支 出				
資 本 的 支 出	1,228,632	399,832	828,800	307.3
改 良 費	1,223,458	385,249	838,209	317.6
投 資	1	1	0	100.0
償 還 金	2,073	11,482	△ 9,409	18.1
補 助 金 返 還 金	100	100	0	100.0
予 備 費	3,000	3,000	0	100.0

資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額11億2,503万8千円は、内部留保資金(損益勘定留保資金及び資本的収支調整額)で補てんします。

(2) 令和7年度下半期の業務の概要

令和7年度は、年間を通じた降雨量が、県下主要ダム（電気事業関連）地点で平年の83.2%となり、令和7年度の販売電力量は目標に対して83.9%、電力料金収入（「容量市場」分除く）は目標に対して84.6%となりました。

最終の3月補正では、収益的収入予算においては、電力料金収入の減などにより2億2,218万3千円の減額補正を、収益的支出予算においては、修繕費の減などにより2億216万2千円の減額補正を、それぞれ行いました。

この結果、最終予算は、収益的収入において23億8,630万2千円、収益的支出において22億9,175万5千円、資本的収入において1,468万7千円、資本的支出において5億9,633万5千円となりました。

また、徳山発電所に係るオーバーホールを引き続き実施しました。

第13表 企業債及び一時借入金の状況(電気事業)

(令和8年3月31日)				(単位 千円)
区 分	発 行 総 額	償 還 額		令 和 7 年 度 末 現 在 高
		当年度償還額	償還額累計	
企 業 債	201,000	11,481	196,855	4,145
錦 川 水 系 発 電 所	83,000	4,851	83,000	0
佐 波 川 発 電 所	40,000	2,072	35,855	4,145
新 阿 武 川 発 電 所	78,000	4,558	78,000	0
一 時 借 入 金	0	0	0	0

2 工業用水道事業

(1) 令和8年度予算及び経営状況

年間総給水量5億6,800万 m^3 と見込み、これを基に収益的収支の予算を編成しています。その予定額は、工業用水道事業収益75億4,516万5千円、工業用水道事業費用67億9,816万円を見込んでいます。

また、資本的収支については、資本的収入17億4,049万8千円、資本的支出75億4,847万2千円を計上し、企業債10億7,772万円を償還するほか、工業用水の安定した供給に資するため、改良事業として木屋川工業用水道二条化事業などを引き続き実施します。

さらに、新規受水企業や契約水量を増やす企業に対して、引込管設置等の初期費用の支援など需要開拓を図る諸施策に引き続き取り組み、工業用水道事業の経営基盤強化に努めます。

本年度の業務予定量並びに収益的収支及び資本的収支の予定額は、次の表のとおりです。

第14表 令和8年度工業用水道事業の業務予定量と前年度との比較

区 分	令 和 8 年 度 (A)	令 和 7 年 度 (B)	増 減 (A)－(B)
年 間 総 給 水 量	568,321,700 m^3	572,473,300 m^3	$\triangle 4,151,600 \text{ m}^3$

第15表 令和8年度工業用水道事業会計予算の前年度との比較

(単位 千円、%)

区 分	令和8年度 当初予算額(A)	令和7年度 当初予算額(B)	比較 (A)－(B)	(A)／(B)
収 益 的 収 入				
工業用水道事業収益	7,545,165	7,445,199	99,966	101.3
営 業 収 益	6,761,761	6,807,322	△ 45,561	99.3
営 業 外 収 益	783,401	637,874	145,527	122.8
特 別 利 益	3	3	0	100.0
収 益 的 支 出				
工業用水道事業費用	6,798,160	6,582,030	216,130	103.3
営 業 費 用	6,602,434	6,412,220	190,214	103.0
営 業 外 費 用	185,723	159,807	25,916	116.2
特 別 損 失	3	3	0	100.0
予 備 費	10,000	10,000	0	100.0
資 本 的 収 入				
資 本 的 収 入	1,740,498	2,090,742	△ 350,244	83.2
企 業 債	1,370,000	1,570,000	△ 200,000	87.3
資 本 剰 余 金	243,666	283,066	△ 39,400	86.1
固 定 資 産 収 入	1	1	0	100.0
雑 収 入	126,831	237,675	△ 110,844	53.4
資 本 的 支 出				
資 本 的 支 出	7,548,472	6,565,234	983,238	115.0
改 良 費	6,458,208	5,401,470	1,056,738	119.6
投 資	1	1	0	100.0
償 還 金	1,077,720	1,122,442	△ 44,722	96.0
補 助 金 返 還 金	2,543	31,321	△ 28,778	8.1
予 備 費	10,000	10,000	0	100.0

資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額58億797万4千円は、内部留保資金(損益勘定留保資金及び資本的収支調整額)で補てんします。

(2) 令和7年度下半期の業務の概要

令和7年度は、一部地域で渇水に伴う自主節水が行われましたが、企業活動に大きな影響を出すことなく給水することができました。

また、さらなる工業用水の安定供給に資するため、木屋川工業用水道二条化事業などを実施するとともに、需要の開拓、企業債残高の縮減などの経営基盤の強化に取り組みました。

最終の3月補正では、収益的収入予算においては、給水収益の減少などにより1億3,314万1千円の減額補正を、収益的支出予算においては、減価償却費の増加などにより2億2,202万6千円の増額補正を、それぞれ行いました。また、資本的収入予算においては、負担金の増加などにより1,183万7千円の増額補正を、資本的支出予算においては、改良費の減少などにより2億3,297万1千円の減額補正を、それぞれ行いました。

この結果、最終予算は、収益的収入において73億1,205万8千円、収益的支出において68億2,454万9千円、資本的収入において21億257万9千円、資本的支出において63億3,226万3千円となりました。

第16表 企業債及び一時借入金の状況(工業用水道事業)

(令和8年3月31日)

(単位 千円)

区 分	発 行 総 額	償 還 額		令 和 7 年 度 末 現 在 高
		当年度償還額	償還額累計	
企 業 債	24,094,400	1,119,302	11,122,941	12,971,459
小 瀬 川 工 業 用 水 道	831,500	60,361	412,063	419,437
向 道 ・ 川 上 工 業 用 水 道	388,000	19,065	252,288	135,712
周 南 工 業 用 水 道	7,414,500	358,424	4,486,344	2,928,156
佐 波 川 工 業 用 水 道	902,000	30,035	203,459	698,541
厚 東 川 工 業 用 水 道	3,913,300	198,642	1,622,186	2,291,114
木 屋 川 工 業 用 水 道	4,207,900	134,341	1,137,472	3,070,428
富 田 夜 市 川 工 業 用 水 道	1,256,900	64,901	656,874	600,026
厚 東 川 第 2 期 工 業 用 水 道	2,024,600	108,317	893,965	1,130,635
厚 狭 川 工 業 用 水 道	2,272,700	103,095	625,022	1,647,678
小 瀬 川 第 2 期 工 業 用 水 道	883,000	42,121	833,268	49,732
一 時 借 入 金	0	0	0	0

3 流域下水道事業

(1) 令和8年度予算及び経営状況

年間総処理水量を828万 m^3 と見込み、これを基に収益的収支の予算を編成しています。その予定額は、流域下水道事業収益19億9,354万円、流域下水道事業費用19億9,354万円を見込んでいます。

また、資本的収支については、資本的収入20億5,227万1千円、資本的支出20億5,227万1千円を計上し、汚泥処理施設などの施設の整備や企業債の償還を行います。

本年度の業務予定量並びに収益的収支及び資本的収支の予定額は、次の表のとおりです。

第17表 令和8年度流域下水道事業の業務予定量と前年度との比較

区 分	令 和 8 年 度 (A)	令 和 7 年 度 (B)	増 減 (A)－(B)
年 間 総 処 理 水 量	8,276,130 m^3	15,406,581 m^3	$\Delta 7,130,451 \text{ m}^3$

第18表 令和8年度流域下水道事業会計予算の前年度との比較

(単位 千円、%)

区 分	令和8年度 当初予算額(A)	令和7年度 当初予算額(B)	比 較 (A)－(B)	(A)／(B)
収 益 的 収 入				
流域下水道事業収益	1,993,540	2,111,855	△ 118,315	94.4
営 業 収 益	959,568	1,140,964	△ 181,396	84.1
営 業 外 収 益	1,033,972	970,891	63,081	106.5
収 益 的 支 出				
流域下水道事業費用	1,993,540	2,111,855	△ 118,315	94.4
営 業 費 用	1,947,469	2,067,491	△ 120,022	94.2
営 業 外 費 用	46,071	44,364	1,707	103.8
資 本 的 収 入				
資 本 的 収 入	2,052,271	1,704,965	347,306	120.4
企 業 債	651,600	374,200	277,400	174.1
国 庫 支 出 金	606,256	820,974	△ 214,718	73.8
負 担 金	794,415	509,791	284,624	155.8
資 本 的 支 出				
資 本 的 支 出	2,052,271	1,704,965	347,306	120.4
建 設 改 良 費	1,764,192	1,400,104	364,088	126.0
固 定 資 産 購 入 費	15,988	8,351	7,637	191.5
償 還 金	272,091	296,510	△ 24,419	91.8

(2) 令和7年度下半期の業務の概要

周南流域下水道事業及び田布施川流域下水道事業の実施により生活環境の向上や水質保全に取り組んでいます。

令和7年度は、下水処理場における長寿命化工事などに取り組みました。

最終の3月補正では、収益的収入予算においては、営業収益の減少などにより3億3,872万2千円の減額補正を、収益的支出予算においては、営業費用の減少などにより3億3,872万2千円の減額補正を、それぞれ行いました。また、資本的収入予算においては、国庫支出金の減少などにより1億5,917万2千円の減額補正を、資本的支出予算においては、建設改良費の減少などにより1億5,917万2千円の減額補正を、それぞれ行いました。

この結果、最終予算は、収益的収入において17億7,331万9千円、収益的支出において17億7,331万9千円、資本的収入において15億4,668万9千円、資本的支出において15億4,668万9千円となりました。

第19表 企業債及び一時借入金の状況(流域下水道事業)

(令和8年3月31日)				(単位 千円)
区 分	発 行 総 額	償 還 額		令 和 7 年 度 末 現 在 高
		令和7年度償還額	償還額累計	
企 業 債	4,111,082	289,900	1,875,447	2,235,635
一 時 借 入 金	0	0	0	0